

第 41 回日本診療放射線技師学術大会参加報告

札幌医科大学附属病院 田仲健朗

2025 年 9 月 12 日から 14 日にかけて、福井県で開催された第 41 回日本診療放射線技師学術大会に参加しました。今回は福井駅周辺の 3 つの会場を使用しての開催で、あいにく天候には恵まれず雨の日もありましたが、駅周辺はアーケードで繋がっており、ほとんど濡れることなく移動することができました。

福井県といえば恐竜の化石発掘で有名で、駅構内や周辺には多くの恐竜モニュメントが設置されています。福井県立大学には「恐竜学部」も設置されており、最新の研究が進められているとのこと。私は今回の訪問で初めてその事実を知り、非常に興味深く感じました。



福井駅にある恐竜モニュメント

私は初日に行われた「画像等手術支援分科会シンポジウム」にて演者を担当しました。シンポジウムは 9 時 30 分開始でしたが、PC 受付は 9 時 00 分からであり、朝一番ということもあって受付は非常に混雑していました。私の PC 受付が完了したのはシンポジウム開始 5 分前で、直前までバタバタした状態でした。

発表内容は「IVR 治療支援のための画像作成」についてで、Zio Station2 を用いたビデオライブによる三次元画像作成手順を解説しました。自ら作成した動画を事前に準備し、それを用いて発表を行うという形式は私にとって初めての試みでしたが、大きなトラブルもなく無事に終わることができたと思います。

質疑応答では多くのご意見・ご質問をいただきました。中でも血管造影の分野で著名な先生からは「今後もこのような企画をぜひ続けてほしい」との温かいお言葉をいただき、今回

の分科会企画が有意義なものであったと実感しました。



会場の様子

写真は「vincent 編」を担当した済生会熊本病院の奥村秀一郎先生

今回の学会では近年注目されている「STAT 画像報告」に関する企画やセッションも行われていました。さらに「タスク・シフト/シェア」に関する講演では、放射線技師だけでなく看護師からの講演もあり、多職種による業務分担の現状や可能性について学ぶことができました。当院ではまだ本格的な取り組みは行っていないですが、今後の業務拡大に向けて検討すべき課題であると再認識しました。

その他にも、「令和の時代の働き方・教育を考える ～Z世代の解像度を高める～」や、「恐竜の秘密に迫る ～CT スキャンでの解析～」といったユニークで興味深い企画も多数あり、非常に充実した学会となりました。

来年の学術大会には、ぜひ多くの皆さまにご参加いただければと思います。



福井名物のソースカツ丼と越前そば